

第一回県民提案 優秀賞決定!

「個性ある地域づくり」という課題で、本年五月から六月にかけて募集した第一回県民提案の優秀賞等が決定され、九月五日、県庁で受賞者に対し細川知事から賞状と賞金が贈られました。

今回応募くださった方々は、年齢は十七歳から八十四歳まで、職業も学生、主婦、農林業、店主、公務員等多岐にわたっています。いずれも郷土を思う熱意あふれる労作で、応募総数は四十六篇に達しました。

審査結果

一、知事賞 該当者なし
一、優秀賞

○「熊本県観光についての一考察」
熊本市長嶺町 末長正雄

○「みずべを生かしたふれあいのまちづくり」
玉名市繁根木町 ふるさと玉名を考える会

一、佳作
○熊本市室園町 小笹康教
○芦北郡芦北町 今村道夫
○球磨郡錦町 川辺琢磨
○玉名市片諏訪 田添嗣信
○熊本市湖東 岩崎彰代志
○熊本市出水 久保山尉介

あなたの知恵が県政に。



○荒尾市宮内出 目 荒木光武
○熊本市出町 宮原正成

優秀賞

「熊本県観光についての一考察」(末長正雄)

「(要旨) 山なみハイウェイを抜けて、熊本を素通りしていく観光バスの流れを止めるには、大津町が最適な場所と考えられる。なぜならば、大津町は宿場町としての長い歴史がある。鉄砲小路を整備したり、大津城(舞鶴城)や本陣を復元するなど、歴史に根ざした開発計画をつくり、大津街道杉並木に随兵行列を通すといったイベントを企画すれば、魅力ある観光地となる」と確信する。

そして、この大津町を拠点として、従来の観光名所である熊本城・阿蘇を結ぶ観光ルートを整備し、さらに空港、菊池温泉へと広げていくことは、点から線へ、そして面へという観光の拡大と合致した考え方と思う。このほか、くまもと日本一づくり運動を観光の目玉として活用することができると思う。

日本一というべき熊本の良質の水に着目して、「くまもと水祭り」を開催し、将来は「日本水祭り」へと発展させていくとか、阿蘇五岳のねは、心像や米塚を夜間照明で浮きたたせ、「日本太鼓フェア」や「世界活火山フェア」を企画するといったイ

ベントづくりも考えられないだろうが。
「みずべを生かしたふれあいのまちづくり」(ふるさと玉名を考える会 代表 徳永博)

優秀賞

「(要旨) 市民の日常生活に密接な、「みずべ」を基本的な場とし、市の花である肥後しょうぶを生かした修景を市街地の中の三地域を選定して次のように展開する。

① 高瀬町は歴史的遺構が多く、文化施設もある。ここを学ぶのに適した場所として修景を考える。
石橋など史蹟が点在する裏川地区では、川と商店街をジグザグ回廊により一体化させる。市民会館地区では、周辺水路に肥後しょうぶなど草花を植え、「学びの道」をつくる。繁根木川河川敷は、昇降階段の数を増やすとともに草花を植栽し、自然を学ぶ場とする。

② 温泉街は旅館が分散しているが、それを道路と水路でつなぐ修景とし、温泉地の印象を強くすることを考える。水路わきのガードレールを利用して花を植えたポリポケットを設置したり、道路の余地をポケットパーク化する。

③ 平面的に広がる住宅地には、数多くの「みず



べ」が点在している。これを小面積の遊び場としてちらすことを考える。岩崎地区の斜面と沢、北亀甲地区の公園と池、南亀甲地区の遊び道と小川といった各地区の地形を生かした子供の遊び場をつくる。

自由提案の入選作も同時に決定

県の機関、市町村役場、農協及び指定金融機関等に設置されたハガキを使用して、知事への提案をいたたく自由提案の入選作も次のとおり決定されました。

○熊本市清水東町 白石悠紀保
○熊本市池上町 小川正嗣
○熊本市池上町 藤井守美
○熊本市清水町 川野秀雄
○熊本市海士江町 合馬文昭
○八代郡竜北町 森 勇
○菊池郡大津町 永田祐稔
○芦北郡田浦町 田中典次
○上益城郡甲佐町 福永晋介

各提案の優秀作については県政への活用に向けていきたいと思っております。今後も県民の皆様方の建設的なご提案をお待ちいたします。

なお、第二回県民提案募集は十一月頃の前定、自由提案については年中受け付けることとなっております。(広報課)

東京・大阪 風通信



●通商産業省新庁舎へ
移転
通商産業省の新庁舎は、昭和五十九年六月に完成し



県の観光宣伝と県特産物即売会を、新宿コマ劇場二階ロビーで行った。

東京だより 熊本の企業 東京で結束。

●東京みつけ会
発起人会の開催
「東京みつけ会」とは、熊本県内に本社等を置く企業の東京支社長、営業所長さん方の集まりである。

七月中にはば、移転を完了した。これは、中央合同庁舎第五号館(厚生省、労働省、環境庁、国土庁、昭和五十八年十一月移転)に引続くものである。

●八代亜紀特別公演協賛の物産と観光展開
七月一日から十五日まで、郷土の人気歌手八代亜紀の特別公演に合わせ、本の

第一回熊本県農産物 販売店モニター会議開催



県産農産物に対する消費者の評価をキャッチできるアンケートとして今後の成果を期待したい。

春の果物、 出荷一段落

京阪神市場の本県産主要青果物市場占有率は、甘夏みかん二二%、すいか七六%、プリンスメロン二九%、その他のメロン四〇%で、いずれも他県産を圧倒した。しかし、
○甘夏みかんは、小玉果が多く、味がやや淡白であった。
○一月の豪雪以来低温が続く、すいか、メロン類は生育が遅れ、需要の多い連休時の入荷が少なかつた。

大阪だより 地元の協力を得て モニター会議を開催

●大阪だより
物の販売に協力的な大阪府下の販売店十五店をモニターとして委嘱し、七月十八日、大阪で第一回目のモニター会議を開いた。

席上、「品質管理に注意して味をそろえて欲しい。」「今回のモニター制度に全面的に協力したい。」等要望、激励が相次いだ。
モニター店は、消費者に直面販売する最前線であり、非常に厳しい環境であった。

健康メモ

適度な運動量を

オリンピックの年でもありますが、最近、趣味のスポーツ雑誌がよく売れているようです。健康とは、病気や障害がないだけではない、からだも、こころも、更に社会的にも良好な状態だといふ一歩進んだ考え方であるWHOの精神が求められているからでしょう。

私達の運動能力は、若い時は心臓や肺の動きの発達と共に伸びますが、中年以降は老化により衰えてきます。昔とった杵柄、と力んでも、年寄りの冷水で、気持ちに身体がこたえてくなくなります。使わない道具にはこりが積もり、錆がつくのと同じで、じっとしては老化を早めてしまいます。

健康保持に適度な運動量と一口にいいますが、心拍数が一分間二〇〜一四〇になる運動を一日十五分以上、一週間に二〜三回行うのがよいとされています。六十歳以上では一分間心拍数二〇〜一三〇を目安にするといわれています。

しかし、これは一つの目安で、年齢、性、運動歴、運動能力など個人差があります。特に中年以上の方はいつの間にか心臓、血管等の障害を起こしている場合があるので、運動を始める前には、一度医師の診察を受けておくことも必要です。無理して激しい運動をするよりも、自分の身体の調子に合わせて、少しずつ量を増やしながら、ストレス解消となるような運動を、規則正しく行う習慣を身につけたいものです。(首席医療審議員 本郷尚史)